

- 問1 ある地域の地形図を確認すると、等高線の間隔が狭い山地から間隔が広い平地へと川が流れ出る地点を中心に、緩やかな傾斜を示す等高線が同心円状に描かれ、そこには果樹園の地図記号が広がっていた。この地形の説明として正しいものを選びなさい。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
1. 台地と呼ばれ、周囲より一段高くなった平坦な場所に形成される。
 2. 扇状地と呼ばれ、山地と平地の境界付近に形成される。
 3. カルスト地形と呼ばれ、石灰岩が侵食されることで形成される。
 4. 三角州と呼ばれ、河口付近の低湿地に形成される。
- 問2 新潟県付近のように、冬の降水量が月間200mmを超えるなど、冬に潤潤で夏に晴天が多い気候の特徴が生じる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
1. 周囲を高い山々に囲まれた盆地状の地形であり、季節風の影響を受けにくく、年間を通じて降水量が少ないため。
 2. 夏の南東季節風が太平洋から湿った空気を運び、日本海側まで到達して長期間の雨を降らせるため。
 3. 一年を通じて偏西風の影響を強く受け、大陸からの乾燥した空気が常に供給されることで夏と冬の寒暖差が生まれるため。
 4. 冬の北西季節風が日本海で水蒸気を補給し、山脈の風上側で雪を降らせる一方、夏は山を越えた乾いた風の影響を受けるため。
- 問3 日本の諸地域の気候について述べた次の文のうち、冬の12月や1月に降水量が極端に多くなる統計上の特徴を持つ「日本海側の気候」の説明として最も適切なものはどれですか。 (2019年 福島県公立入試 類似)
1. 夏に小笠原気圧から吹き出す南東の季節風が、梅雨前線とともに大量の雨をもたらすため。
 2. 年間を通じて安定した高気圧に覆われ、山地によって湿った空気が遮られるため。
 3. 冬に大陸から吹きつける冷たく湿った北西の季節風が、山脈にぶつかって雪を降らせるため。
 4. 標高が高い盆地特有の地形で、夏と冬の気温差が大きく降水量が通年で少ないため。
- 問4 山地から平地へ川が流れ出る場所に、上流から運ばれてきた土砂が堆積してできた扇形の地形を何といいますか。砂や小石が多く含まれ、水はけが良いという特徴があります。 (2022年 高知県公立入試 類似)
1. 扇状地
 2. 台地
 3. 砂丘
 4. 三角州
- 問5 山地と平野の境界に形成される扇状地では、粒の大きな砂や礫（小石）が堆積しているため、河川の水が地下にしみ込みやすいという性質があります。このため、扇状地の中央部（扇尖）で見られる特徴的な土地利用として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 大阪府公立入試 類似)
1. 水はけの良さを生かした果樹園や畑
 2. 豊富な地表水を利用した広大な水田
 3. 低湿な土地を利用した蓮根などの栽培
 4. 地盤の固さを生かした大規模な工業団地
- 問6 松本市などに代表される中央高地の気候について、富山市（日本海側）や名古屋市（太平洋側）の統計と比較したとき、その特徴として最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 埼玉県公立入試 類似)
1. 冬は北西の季節風の影響で降雪が多く、夏は比較的涼しい。
 2. 梅雨や台風の影響を強く受けるため、夏から秋にかけての降水量が非常に多い。
 3. 年間を通して降水量が比較적으로少なく、夏と冬の気温差が大きくなる。
 4. 一年中温暖な気候であり、冬でも最低気温が氷点下になることはほとんどない。
- 問7 自治体が発行する防災資料において、洪水時の浸水想定区域や土砂災害警戒区域、および指定緊急避難場所などの情報を住民に提供する主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
1. 観光客に対して地域の自然環境を詳しく紹介し、エコツーリズムを推進するため
 2. 住民が地域の災害リスクを正しく理解し、災害時に迅速かつ適切な避難行動をとれるようにするため
 3. 地域の土地利用の歴史を記録し、伝統的な景観を維持するための資料とするため
 4. 土地の起伏や標高を正確に示し、道路建設などの公共事業の計画を住民に知らせるため
- 問8 北海道の石狩川流域は、かつて泥炭地と呼ばれる湿地帯が広がっていましたが、現在では土地改良が進み、広大な農地が広がっています。この地域の土地利用を2万5千分の1地形図で確認した際、最も多く見られる「V」の字の形をした地図記号が示す事柄と、その特徴について説明したものとして適切なものを選びなさい。 (2021年 福岡県公立入試 類似)
1. 広葉樹林の記号であり、石狩川沿いに自然のままの森が残っていることを示す。
 2. 果樹園の記号であり、寒冷な気候に適した果物の栽培が行われていることを示す。
 3. 畑の記号であり、野菜や飼料作物などが栽培されていることを示す。
 4. 田の記号であり、石狩川の豊富な水を利用した稲作が行われていることを示す。
- 問9 多目的ダムの機能について述べた次の文のうち、日本の河川の特性を踏まえた「水量調節」と「資源活用」の観点から正しいものはどれですか。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)
1. 集中豪雨の際にダムに水を貯めることで河川の急激な増水を抑え、貯めた水は平時に水力発電や水道用水として利用する。
 2. 日本海側の地域において、冬の積雪が河川に流れ込むのを防ぎ、融雪による洪水を完全に断つために建設される。
 3. 河川の流れを分断することで、上流から流れてくる栄養分豊富な土砂をせき止め、ダム湖内で水産資源の養殖のみに特化させる。
 4. 森林の保水能力を高めるために、河川の周囲に大規模な堤防を築いて雨水を地下に浸透させやすくする。
- 問10 自然災害による浸水被害を予測し、避難場所を検討する際に、地形図の等高線から読み取れる情報の説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 長崎県公立入試 類似)
1. 等高線の間隔が広い平坦な低地は、河川が氾濫した際に水が溜まりやすく、浸水被害のリスクが高い。
 2. 等高線が密になっている場所は、土地が平らであることを示しているため、浸水時の避難所に適している。
 3. 地形図に示される等高線は海面からの深さを表すものであるため、洪水のリスクを判断する材料にはならない。
 4. 等高線の数値が大きい地点であれば、河川のすぐ近くであっても浸水の心配は全く考慮しなくてよい。
- 問11 静岡県島田市付近の、大井川が山間部から平野へと流れ出る場所に見られる地形について、その成り立ちと土地利用の関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。なお、この地域には台地状の地形が広がり、地図上には茶畑の記号が多く記載されています。 (2025年 京都府公立入試 類似)
1. 火山灰が厚く堆積して形成されており、酸性の土壌を好む茶の栽培に利用されている。
 2. 河口付近に細かい泥が堆積して形成されており、水分が豊富なため広葉樹林が広がっている。
 3. 川の流れによって周囲が削られて残った地形であり、浸水の心配がないため針葉樹林として利用されている。
 4. 河川が運んできた土砂が堆積して形成されており、水はけが良いという特性を活かして茶畑が作られている。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 扇状地と呼ばれ、山地と平地の境界付近に形成される。	山地から平地への出口（谷口）を頂点として広がる地形は扇状地です。地形図では等高線が山側から平地側へ丸く突き出すように描かれます。記述にある「果樹園の記号」や「山地と平地の境界」といった特徴は、まさに扇状地に見られる代表的な景観です。
問2	答え 4 冬の北西季節風が日本海で水蒸気を補給し、山脈の風上側で雪を降らせる一方、夏は山を越えた乾いた風の影響を受けるため。	日本海側の地域では、冬は北西からの季節風が日本海で水分を得て雪を降らせるため、降水量が非常に多くなります。逆に夏は、太平洋から吹く南東の季節風が中央の山脈で水分を落とした後に吹き下ろしてくるため、晴天の日が多くなり、気温も上昇しやすい（フェーン現象が発生することもある）というメカニズムになっています。
問3	答え 3 冬に大陸から吹きつける冷たく湿った北西の季節風が、山脈にぶつかり雪を降らせるため。	日本海側の地域では、冬になるとユーラシア大陸から北西の季節風が吹きつけます。この風が日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、日本の中心部にある山脈にぶつかることで、日本海側に多くの雪（降水量）をもたらします。そのため、冬の時期に降水量のグラフが突出して高くなるのが特徴です。
問4	答え 1 扇状地	川が山地から平地に差し掛かる付近では、流れが緩やかになるため、運ばれてきた砂や小石が堆積します。これにより形成される扇形の地形を扇状地と呼びます。堆積物の粒が大きいため、雨水などが地下に浸透しやすく、水はけが非常に良いという性質を持っています。
問5	答え 1 水はけの良さを生かした果樹園や畑	扇状地の堆積物は粒子が粗く隙間が多いため、水が地下に浸透して「伏流水」となります。地表に水が残りにくいため、古くから稲作（水田）には不向きとされ、一方で水はけの良さを好む果樹（ブドウやモモなど）の栽培や畑作に広く利用されてきました。山梨県の甲府盆地などがその代表例です。
問6	答え 3 年間を通して降水量が比較的少なく、夏と冬の気温差が大きくなる。	中央高地は本州の中央部に位置する内陸部であるため、海からの湿った空気が山脈に遮られます。その結果、松本市などの気候データに現れるように、海岸沿いの都市と比べて年間を通して降水量が少なくなります。また、海の影響を受けにくいため、夏は気温が上がりやすく冬は冷え込みが厳しい、つまり夏と冬の気温差（年較差）が大きいという特徴があります。
問7	答え 2 住民が地域の災害リスクを正しく理解し、災害時に迅速かつ適切な避難行動をとれるようにするため	ハザードマップは、自然災害による被害の可能性を可視化することで、住民の防災意識を高め、避難のタイミングや経路を事前に検討させる役割を担っています。これにより、実際の災害発生時に混乱を避け、命を守る行動につなげることが最大の目的です。
問8	答え 3 畑の記号であり、野菜や飼料作物などが栽培されていることを示す。	石狩川流域の石狩平野では、排水施設の整備や客土といった大規模な土地改良が行われ、かつての湿地が日本を代表する農業地帯へと生まれ変わりました。現在の石狩川周辺の地形図では、広大な面積にわたって「V」の字型の畑の記号が描かれており、大規模な畑作や酪農のための飼料生産が行われていることを読み取ることができます。
問9	答え 1 集中豪雨の際にダムに水を貯めることで河川の急激な増水を抑え、貯めた水は平時に水力発電や水道用水として利用する。	多目的ダムは、単に水を貯めるだけでなく、季節や気象状況に応じてダムからの放流量をコントロール（水量調節）する機能を持っています。これにより、台風などの気象災害から地域を守る「防災」の役割と、急峻な地形を利用した「水力発電」や生活を支える水資源の確保という「資源活用」の役割を両立させています。砂防ダムと混同されやすいですが、多目的ダムはより幅広い利活用を前提としています。
問10	答え 1 等高線の間隔が広い平坦な低地は、河川が氾濫した際に水が溜まりやすく、浸水被害のリスクが高い。	等高線の間隔が広いことは、その土地の傾斜が緩やかで平坦であることを示しています。河川付近の平坦な低地は、一度氾濫が起きると水が引きにくく、滞留して深刻な浸水被害をもたらす傾向があります。そのため、防災学習やハザードマップの確認においては、標高だけでなく地形の起伏（等高線の密度）を正しく読み取ることが求められます。
問11	答え 4 河川が運んできた土砂が堆積して形成されており、水はけが良いという特性を活かして茶畑が作られている。	扇状地は、山間部から平野に出たところで河川の流速が落ち、運搬されてきた土砂が堆積することで形成されます。構成物質に砂や礫（小石）が多く含まれるため、水が地中にしみ込みやすく、非常に水はけが良いのが特徴です。そのため、水利の悪い場所では稲作よりも果樹園や茶畑としての利用が適しており、静岡県の大井川沿いにある牧之原台地などの扇状地では大規模な茶畑が見られます。